

I. 学校の概要

隠岐郡五箇村立五箇小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	13
児童数	17	21	17	25	15	25	2	122	

II. 実践研究の概要

1. 主題 (テーマ)

基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育む指導・評価の研究

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数 (全学年を通して個人差が顕著な傾向の教科であるため)

(2) 年次計画

平成十四年度

○テーマ
基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育む指導・評価の研究

○仮説・児童一人一人の基礎・基本の定着を図るための個に応じた学習を工夫すれば、児童の学習に対する自信が高まり、自ら学ぶ意欲が向上するであろう。
・指導に役立つ評価の工夫を推進すれば、児童の確かな学力は着実に育まれるであろう。

○研究内容・方法

- ・基礎・基本の重視
 - ア) 朝学習と補充学習の時間の効果的、計画的な指導の在り方 (教材の開発と指導方法の工夫)
 - イ) 算数科を主とした基礎・基本を重視した学習指導の展開 (少人数指導、習熟度別指導等を活用した学習指導の工夫)
- ・指導・支援と評価の一体化の工夫
 - ア) 算数科を主とした児童の学習状況を客観的に評価し、指導に活かすための評価規準、評価方法等の研究、開発
 - イ) 学校評議員と連携した研究の自己点検・自己評価の実施

平成十五年度

○テーマ
基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育む指導・評価の研究

○仮説・児童一人一人の基礎・基本の定着を図るための個に応じた学習を工夫すれば、児童の学習に対する自信が高まり、自ら学ぶ意欲が向上するであろう。
・指導に役立つ評価の工夫を推進すれば、児童の確かな学力は着実に育まれるであろう。

○研究内容・方法

- ・基礎・基本の重視

- ア) 朝学習と補充学習の時間の効果的、計画的な指導の在り方
(教材の開発と指導方法の工夫)
- イ) 算数科を主とした基礎・基本を重視した学習指導の展開
(少人数指導、習熟度別指導等を活用した学習指導の工夫)

- ・「自ら学び考える力」の育成 (追加)
 - ア) 算数科において算数的活動や表現活動を取り入れた学習指導の工夫

*新たに追加した理由は、「確かな学力」について、「基礎・基本の定着」はもとより、判断力や思考力、表現力といった総合的な力(「自ら学び考える力」)を育成していくことも大切であると捉え直したからである。こうした両方の力が伴って、児童が主体的に学習に取り組む意欲や態度に結びつくと考えたからである。

- ・指導・支援と評価の一体化の工夫
 - ア) 算数科を主とした児童の学習状況を客観的に評価し、指導に活かすための評価規準、評価方法等の研究、開発
 - イ) 学校評議員と連携した研究の自己点検・自己評価の実施

○テーマ

基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育む指導・評価の研究

○仮説・児童一人一人の基礎・基本の定着を図るための個に応じた学習を工夫すれば、児童の学習に対する自信が高まり、自ら学ぶ意欲が向上するであろう。

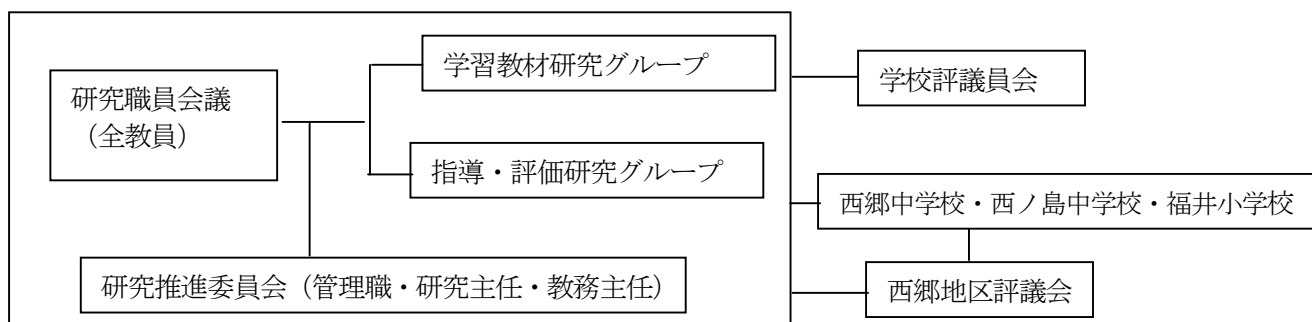
- ・指導に役立つ評価の工夫を推進すれば、児童の確かな学力は着実に育まれるであろう。

○研究内容・方法

研究内容は、平成15年度の実践を基に反省、検討を重ねて改善点を明らかにし、研究内容を明確にする。

平成十六年度

(3) 研究推進体制



III.平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

《 自ら考え学ぶ力の育成について 》

- ・ 算数的活動や表現活動の場面を単元計画に意図的に取り入れることによって、友達のと自分の考えを比べ、互いの考えのよさを認め合って考えを深めていくことができるようになった。また、自分の考えを表現することで、自尊感情が高まり自信を持って学習に臨む児童が増えた。
- ・ 算数科に対する児童の学習意欲は、前年度に引き続き高く、「算数が楽しい」という声が聞かれた。学習に取り組む姿にも集中力が増しており、自己評価を見ても肯定的な評価が多い。

《 基礎・基本の定着について 》

- ・ 毎時間での評価活動や児童の自己評価から、児童各自の意欲面や考え方、理解度などを把握した。単元末のテストや評価の集積から考えると、児童の基礎・基本の定着は確実に向上している。特に児童一人一人の評価の集積によって、その時間に理解が不十分であった児童への補充的な指導をすることができた。

2. 今後の課題

- (1) 児童の多様な考えを生かす。
 - ・児童の学び方や表現活動を指導。
 - ・意図的に算数的活動の場を設定。
- (2) 評価規準の客観性・信頼性を高める。
 - ・教師間での評価のばらつきや、評価規準の表記の曖昧さをなくす。
- (3) 発展的・補充的な教材開発をする。
- (4) 補充学習の時間を確保する。
- (5) 家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。
- (6) 定期的に地域や保護者に向けての情報発信を行う。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- ・評価規準を基にした児童一人一人の学習成果を把握する評価表の集積を実施している。
- ・客観的に児童の基礎・基本の定着を把握するため、学力調査を学年末に実施している。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会、説明会等の開催実績
 - 平成15年4月25日 フロンティア事業に対する保護者説明会（作成文書をもとに参観日を利用して保護者説明会を実施。）
 - 平成15年12月5日 公開授業（『児童の思考を深める算数的活動を通して』をテーマとし、近隣の小中学校の教員を対象に2年生と4年生の算数科の公開授業を実施した。）
- ・HP作成の今後の予定
 - HPは、開設している。研究内容のページについては、今年度中に取組状況を公開する予定。
(gokasyou@mx.miracle.ne.jp)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- 【継続校】 14年度からの継続校
- 【学校規模】 7～12学級
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
- 【研究教科】 算数
- 【加配の有無】 有